

少人数教育を活かした キャリア形成支援



千葉経済大学 経済学部
准教授
中 剛



1 沿革

千葉経済大学は1学部2学科を擁す単科大学であり、「片手に論語、片手に算盤」を建学の精神とし、人間性や実学を重視した教育を行ってきた。2018年には学園創設85周年、大学開学30周年を迎える。

2015年度以降、一年次から所属できる「キャリア別コース制（7コース）」を設置し、現在の学修と将来の就職との繋がりを「見える化」することで、効率的な学習を促している。総学生数が約1000人という小規模大学ならではの「顔が見える」関係を活かして、学生一人ひとりの志望や個性に応じたきめ細かな指導を実践している。学生全員の「顔と名前」が一致する距離感に加え、教員とキャリアセンタ―職員の密な連携により、多様な学生に対する適切なキャリア形成支援を展開している。

2 学生の特徴に応じた 就職支援の在り方

本学の学生は70%以上が地元就職で内定先を決める。にもかかわらず、彼らにとって地元企業は、案外近いようで遠い存在である場合が少なくない。それは、地場産業等の地域のビジネス環境に関する基礎知識が欠如していることに起因する。知名度の高さ以上の

優良企業に出会えるか否かは、本人のフットワーク（行動力）と人的ネットワークが鍵になる。

特に、一学年が250人程度の本学では、学生と教職員の関係構築が決定的に重要になることもある。例えば、（キャリアセンター側が）就職活動状況を正確に把握できている学生であるほど、よりタイムリーな支援が可能となる。中には、キャリアセンターを「居場所」とし、「心の拠り所」になっているような学生へのフォロー・リファーマー制が即座に機能するのは、少人数教育の強みが発揮されている所以であろう。

3 実践的なオリジナルプログラム

毎年9月下旬、3年次生の「親子」を対象とした「親子就活スタートアップセミナー」を開催し、大学と保護者による就活の支援体制を築いている。こうした「外堀を埋める」戦法も過干渉になると逆効果であるため、保護者宛てレター（「お願いしたい四カ条」）を送付しながら、慎重に行っている。

また、いち早く就活モードに切り替えてもらうべく、体験学習型の「就活体験講座」「企業訪問」「未内定者に対する三者面談」等を随時開催している。これらの就活イベントは隣接する短期大学部と共同開催である場合が多く、少人数教育同士の相乗効果によって早

期の就職意識化に寄与している。

4 コース制を基盤とした 教育実践に向けた課題

本来、就職支援を含むキャリア形成支援は全学的に実践すべきものである。就職支援は正課授業と連動させることで、一層効果が期待できる。進路・目的意識の重圧は過度な不安や現実逃避のリスクと隣り合わせである。

現状では、本学学生にキャリアの自律を促進させることは必ずしも容易ではない。自らの進路に対して、主体的に意思決定をする経験が乏しかった者も存在する。彼らに対して、いかに職業能力の「見える化」を推し進め、キャリアの自律をどう促せばよいのか。大学における職業能力評価や職業教育の手法（教育力）のさらなる進化が求められる。これは第一段階の学内における課題である。

その上で、「本学での学びが一般的スキルとして会社の仕事（課業）に大いに役立つ」という次の段階に到達したときに初めて、地方（地域ニーズ）に求められる職域に特化した人材育成への貢献が認められるのではなかろうか。そこに、学生一人ひとりに寄り添ったキャリア別コース制を中心とした少人数教育の質保証、ひいては一地方における小規模大学の真価が問われているように思われる。